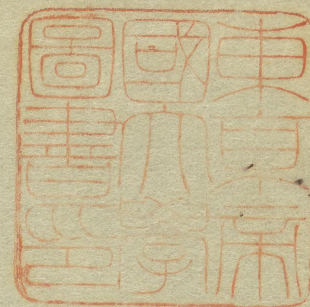


合要類纂

九年々報

七十七

東京大学
庶務課
43
五十年史料
99



B 95401

謹將東京開成學校第四年報。呈進。大報中載
凡所考實。明治九年一月。至八月。至
八開月間。提掌理治。諸般餘項。係
蓋該報。編次一年。所以。以
本年以後年報編次。制改。一。學年。從
以前。故。當學年。始期即。客年九月。
同。二月。至。四月。月間。事項。若。
第一。年報。登錄。其。全復。後。
其。封。其。全學年。校。

文部大臣
大藏大臣
陸軍大臣
海軍大臣
司法大臣
內務大臣
農商務大臣
教育大臣
學部

謹テ東京開成學校第四年報ヲ呈進ス報中載ス
ル所ノ者ハ實ニ明治九年一月ヨリ同八月ニ至
ルハ閏月間ニ提掌理治スル諸般ノ條項ニ係ル
蓋シ該報ノ編次一年ニ端々サル所以ノモノハ
本年以後年報編次ノ制改マリ一ニ學年ニ從フ
ヲ以テノ故ナリ當學年ノ初期即チ客年九月ヨ
リ同十二月ニ至ル四ヶ月間ノ事項ノ若キハ既
ニ第三年報ニ登録セルヲ以テ今復々茲ニ贅セ
ス冀クハ兩報ヲ對照シ以テ其全學年ノ梗概ヲ
瞭知セラレシヲ

明治九年十二月 東京開成學校長補濱尾新
文部大輔田中不二磨殿

明治九年一月ヨリ
同八月ニ至ル

處務概旨

諸規則改定

內外教員任補轉解

海外留學生派遣

生徒進步ノ概況并諸教授申報抄譯

書籍器械等准備ノ概畧

諸般表

東京大学
文理学部
錢トス其金額前會計年度ヨリ減少スルヲ四拾五圓蓋シ旅費定則ノ改定ニ由リテ旅費ノ減省スルヲ以テナリ○三十一日監事ノ名稱ヲ廢ス

○第二 諸規則改定

本年七月八日給費生規則ヲ確定ス是ニ於テ昨年十二月貸費生規則廢止ノ後仍ホ姑ク舊規ニ依リ一月八圓ヲ給付セルモノニ以後新則ニ準シ一月六圓ヲ給付シ從前ノ貸費生ヲ改テ給費生トス○此月入學試験ノ課目ヲ進メ今學年ノ終リ及ヒ次學年ノ始メ新タニ豫科最下級ニ及第スル者ノ規トス即チ左ノ如シ

國書文章 英語作文 地理圖誌及地政
萬國史大綱 算術及代數一次方程式

○此月又一昨年創定ノ諸學科課程中ニ稍釐正ヲ加ヘ今學年ノ末ヨリ漸次次學年ニ至リテ施行セントス即チ左ノ如シ

諸學科課程

第一條 普通科課程中ニ載スル英語歴史物理學化學博物學畫學ノ試験ヲ經及第ノ者ニ

アラサレバ専門科ニ進入スルヲ許サス

第二條 普通科課程ヲ三年トシ一年ヲ別チテ

二期トス而シテ普通科第一年ノ生徒ヲ普

通科第三級トシ同第二年ノ生徒ヲ同第二

級トシ同第三年ノ生徒ヲ同第一級トス

第三條 入學試験ニ及第ノ者ヲ普通科第三級トシ普通科第一年ノ課程ヲ踐修セシム但

シ學力高等ノ者ハ更ニ試験ヲ受ケ適當ノ級ニ入ルヲ許ス

第四條 後條ニ記載スル物理學專門科課程ハ從來在校ノ佛學生ノ爲ニ設置スル者ナル

カ故ニ爾後新タニ入學ヲ許サズ

第五條 次ノ課程中記載スル諸學科ノ外ニ國書ヲ讀ミ邦文ヲ作ラシメ英書ヲ翻譯セシム且ツ法學生徒ハ日本法律及ヒ支那法律ノ要領ヲ學修セシム

普通科課程

第一年

英語學

第一期

修辭 作文

數學

代數

幾何

地理學

地形

史學

英國史

博物誌

人身及比較解剖及生理

畫學

自在畫法

描畫及簡易ノ模型寫法

英語學

英文學

作文

數學

代數

幾何

史學

法國史

博物誌

植物組織及解剖

畫學

自在畫法

圓體及實體寫法

實體寫法

第二年

第一期

英語學 (英文學 作文)

數學 (代數終ル 幾何)

史學 (史學理論)

物理學 (初歩實驗説明)

博物誌 (動物序類)

畫學 (自在畫法 (真寫畫法 花果及人體))

第二期

英語學 (論理及論文)

數學 (幾何終ル)

史學 (史學理論前期ノ續)

經濟學 (前期ニ同シ)

物理學 (植物分類及植物生理 日本植物上ノ講義)

博物誌

畫學 (自在畫法 (真寫畫法 景色及築造物))

第三年

第一期

英語學 (論理及論文)

數學 (三角法及應用)

理學 (心理學)

物理學 (重學初歩 萬有物理)

化學 (普通化學 (無機))

博物誌 (金石學初歩)

畫學 (用器畫學 (幾何圖法及投影法))

第二期

物理學 (萬有物理 星學)

數學 (圓錐曲線法及代數幾何)

理學 (修身學)

化學 (前期ニ同シ)

博物誌 (地質學初歩)

畫學 (遠景 機器圖 製圖演習)

法學專門科課程

第一年專門科下級

不動產法

動產法

結約法

刑法

法蘭西語

國憲

(該科ヲ學ブト學バサルトハ生徒ノ望ニ任ス)
第二年專門科中級

年
本
字
一
字
隔
ル

証據法

訴訟法 (民事訴訟法 刑事訴訟法)

衡平法

海事訴訟法

法律討論演習

法蘭西語

羅馬法律 (第一年ノ國憲ニ於ケルカ如シ)

第三年專門科上級

前二年間踐修スル總科目ノ復習

列國交際法 列國交際公法 列國交際私法

法律討論演習

法論

拿破侖法律要旨

法
學
部

年トナトノ同
一字以テ

化學專門科課程

第一年專門科下級

分析化學(檢質分析實驗及定量分析大意)

冶金學

有機化學

物理學(講義及實驗)

金石學

法蘭西語

第二年專門科中級

分析化學(定量分析)

製造化學

物理學(講義及實驗)

地質學

法蘭西學

第三年專門科上級

分析化學(定量分析及試金)

製造化學

採礦學(地質調查 測量 堀鑛 撰鑛)

工學專門科課程

第一年專門科下級

高等數學

重學及機械構成法

物質強弱論

圖畫推算學(講義及實驗)

陸地測量(講義 野外及館内實驗)

物理學(講義及實驗)

法蘭西語

第二年專門科中級

熱動學理論及應用

結構強弱論

機器圖

機器功力及工場實驗上ノ講義

鑛道測量及築造 講義 野外及館内實驗

地質學

物理學 (講義及實驗)

法蘭西語

第三年專門科上級

海陸蒸機樣式ノ講義

工業ノ計畫及製作圖及計費ノ實驗

水機工學

測地術 (講義 野外及館内實驗)

採鑛學 (地質調查 測量 掘鑛及撰鑛)

物理學本科課程 (1)

第一年

物理學 (初步物理)

數學 (代數追補 平面代數幾何)

立休代數幾何

畫法幾何

重學 (初步重學)

畫

第二年

物理學 (高等物理 重力 熱 磁氣 電磁作用)

電氣流動論 實驗
 數學 高等代數 微分
 重学 高等重学 静勢 運動
 算畫

第三年

高等物理学 聴学 視学 實驗 積分
 重学 數理熟論
 算畫 動勢 静水 動水 器械理論

諸学科ノ課程ニ準シ其要畧ヲ釐定シ以テ授業ノ順次ヲ明示ス

諸学科要畧 (前年報中ニ学科條目トセリ)

第一 英文学 修辭学 論理学
 英語学及ヒ英文学ノ科ハ英語ノ起原發達文法及ヒ作文法并ニ英文ノ起原隆興及ヒ性質ノ諸項ヲ包括シ併テ英語及ヒ英文ノ進歩ト之カ變化及ヒ更善ヲ生シタル感力トヲ講明ス
 修辭学ノ科ハ一論題ニ關スル引証又ハ推理ノ正シキ布置法并ニ散文體ノ潤飾法言語ノ用法文詞ノ美妙論語氣語趣味批評等ヲ課ス
 論理学ノ科ハ演繹歸納ノ兩論法ヲ課シ時々辯論術ノ歴史ヲ講説ス
 生徒ハ英文ヲ以テ廣義ヲ作り抄録ヲ做シ論文演説批評評論等ヲ草シ説略索引ヲ製シ或ハ公

務又ハ商用ニ關スル文書ヲ作ル可シ

教科書目

一 マルシ氏著 英語歴史

一 モルレー氏著 英文學歴史

一 アンドルウート氏著 英文學袖珍

一 ヘヴン氏著 修辭學 ベーニ氏著 同書

一 フォーレル氏著 演繹論理學

一 シェリクスピール

第二 史學 理學

本校ニ入ル所々生徒ハ豫メ萬國歴史ノ大畧ヲ領知セサルズカラス入校第一年ノ初期ニハ

英國史ヲ研究スヘシ而シテ其第二期ニハ

ハゲル氏ノ佛國史ヲ研究スヘシ且ツ問題ニ應

ジテ論文ヲ作ルベシ

第二年ノ間ハ全ク史學理學ニ從事スベシ教授

講義ヲ以テ史上ノ形勢ヲ論スルトキハ生徒其

主意ヲ書取り而シテ之カ論文ヲ作ルベシ

第三年ノ初期ニハ心理學ヲ課シ而シテ第二期

ニハ修身學ヲ課ス生徒ハ教科書トシテドクト

ルヘブン氏所著ノ書ヲ用フト雖モ又自己ノ

解剖分類ヲ以テ其說ヲ述べ又論文ヲ作り而シ

テ批評スベシ

第三 數學

東京大学
理学部

豫科ニ於テ授クル所ノ数学ハ本科ニ入ルノ階
梯タルヲ以テ高等ノモノニ非ラス則チ初年ニ
ハ代数学ヲ学ビ方程式總論ニ至リテ止ミ且又
幾何学初歩ヲ学ブ
第二年ニハ代數及ヒ幾何ノ二学ヲ卒ハ第三年
ニハ三角法、圓錐曲線法、及ヒ代數幾何学ヲ卒ル
高等数学ハ工学本科生之ヲ学ブ
第四 物理学
物理学ハ豫科ノ第二年及ヒ第三年ニ之ヲ教ヘ
又化学、工学等ノ本科ノ第一年及ヒ第二年ニ之
ヲ教フ

第一 豫科

豫科ニ於テ物理学ヲ課スル目的ハ生徒ヲシテ
世ノ学者殊ニ術藝家タル者ノ知ラスニバアル
可ウサル物理ヲ学ハシムルニ在リ其教授法ハ
先ツ平易ノ講義或ハ談論ニ旁ウ實驗ヲ交ヘテ
学科ノ全躰ヲ講過シ生徒ニハ適宜ノ書物ヲ渡
シ置キテ屢々其書并ニ講義中ノ意義ヲ查問シ
以テ学科ノ語ニ習熟シ造化諸力ノ最モ緊要ナ
ル功用ヲ實見シ且ツ其功用ヲ説明セシ通説ヲ
略知セシム斯ク一年ハ大畧ノ修業ニ從事セシ
ハルナリ
豫科第三年ノ初期ニハ生徒数学ニ上達シテ勢
力論(静勢法及動勢法)ノ理ヲ固液氣三體ノ重学

ニ適用スル法ヲ学フニ堪ユ可キヲ以テ乃チ此
課ニ従事セシム同年ノ茅二期ニハ萬有物理学
ニ屬スル諸項ヲ攷覈セシム其目左ノ如シ

- 一天體ノ運動
- 一六合中ノ引力
- 一天體ノ光
- 一大氣中光線ノ現像
- 一地上ノ寒暖
- 一大氣ノ壓力及ヒ流動
- 一水氣象學即チ雲雨霞等ノ論
- 一大氣中ノ電氣
- 一大地ノ磁氣力

茅二 本科

本科ニ於テ物理学ヲ授ケル目的ハ二アリ一ハ
數理ヲ適用シテ重學ニ次テ修ムル所ノ諸科ヲ
一層精密ニ學ハシムルニ在リ又一ハ試験室ニ
於テ實地習練ヲ做シ以テ手術ニ熟達セシムル
ニ在リ
第一年ニ聽學并ニ熟視、電、磁、四學ノ講義ヲ授ケ
又物理学上ノ數式ヲ設為シ且ツ此數式ヲ用井
テ實際ノ問題ヲ解釋スル法ニ專ラ注意セシム
第二年ニ生徒ハ試験室ニ入り各種器械ノ用法
ヲ學ビ且ツ多般ノ試験ヲ做ス生徒ハ試験ニ從
事スルトキ獨リ造化諸力ノ功用ヲ觀察スルノ
ミナラズ又力ノ及フ丈ケハ之ヲ測度セサル可

ラス斯リ其觀察上ノ結果ト計算上ノ結果トヲ比較シ以テ萬物自然ノ規則ヲ驗シ又規矩ニ從テ学科中ノ各件ヲ考究シ而シテ其手段ト結果トノ有用ナル可キモノハ登録シテ以テ後ニ存ス

第五 動物学及植物学

豫科ノ二ヶ年ヲ此学科ニ分賦ス日本ノ博物学ヲ講明センカタメニ現今大ニ力ヲ盡シテ諸品ヲ蒐集シ而シテ之ヲ分類セリ生徒ヲシテ自ラ勉メテ動物植物ノ見本ヲ搜聚セシメ又動物植物学ニ關涉セル日本諸家ノ著書ニ就テ其見聞ヲ廣メシム此科ニ於テハ斯リ常ニ

見慣レタル内國產出ノ見本ニ就テ直ニ其學ヲ研究セシメ以テ生徒学科ヲ瞭解スルノ一大助トス

第六 金石学

豫科第三年ノ初期ニ金石学ノ起端トシテ結晶学ヲ始メ木製及ヒ玻璃製ノ結晶模型ヲ假リ以テ真形ト理形トヲ講シ生徒ニ教フルニ當ニ單純規正ノ結晶ノミナラス尋常實地ニ顯ハル所ノ交結形、半面形及ヒ歪形ノ識別方ヲ以テス同年中ニ次リニ金石学ノ初步ヲ以テシ生徒ヲシテ書物ニ就キ化学上ノ抱合、物理学上ノ性質發現ノ模様及ヒ尋常有用ノ金石ノ用途ヲ學

ハシメ且ツ本校所蔵ノ金石見本ニ就テ之カ外
様ニ慣熟セシム千餘箇ノ見本一部ハ隨意觸手
ノ許可ヲ與ヘタル生徒ニ限り常ニ之ヲ使用ス
スヲ許ス然レトモ四千餘箇ノ見本ノ本部ハ
上ニ玻璃ヲ掩ヒテ唯其覽閱ニ供ス本年期中ハ
生徒ヲシテ專ラ實驗ニ習練セシム其法ハ若干
ノ結晶模型或ハ無銘ノ金石見本ヲ之ニ給與シ
或ハ唯其外様ニ就テ之ヲ鑒定指名セシメ又ハ
教授ニ從テ物理学或ハ化学上確著ノ性質二三
ヲ質問シ教授ヨリ應答ノ助ヲ借りテ之ヲ鑒定
指名セシム

本科下級第一年ニハ化学生徒ヲシテ此学科ヲ
繼續シ稀有ノ金石ヲ攷覈セシム教室ニ於テ實

驗ニ習練セシムト雖モ金石ノ軟硬條痕結晶狀
比重吹管反應等ノ如キ物理上ノ性質ヲ判斷ス
ルニ必要ナル手術ハ總テ生徒ヲシテ自ラ之ヲ
做サシム

第七 地質学

本科第二年ニ地質学ヲ教ユ其講義ハ先ツ地文
地質学^{地球ノ外貌山川嶺河}變原地質学^{地層變遷}
論^{地質学ノ論}并ニ石質学古生物学^{古生物ノ学}ヲ論シタル後重モニ
沿革地質学ヲ説ク
沿革地質学ノ講義ハ上古ヨリ今時ニ至ルマデ
各種ノ地層ヲ造成セル物質ノ本性ヲ講解シテ
此物質ノ位置ト其内ニ埋没セル動植物ノ遺跡

トヲ明カニス

其他種々ノ年紀ニ属スル地層ノ布置ヲ説キ生徒ヲシテ其内ニ存在セル有用金石ハ何物タルヤヲ知ラシム且ツ時有時ハ地質造成ノ次第ヲ復講シ地質年代ノ間ニ起リタル地球變遷ノ概畧ヲ圖示ス

右課目ヲ終リタル時ハ日本地質ノ講義ニ遷リテ殊ニ本島(奥羽ヨリ長防ニ至ル)ノ地質ヲ講明ス又地質測量ノ最要理ヲ説示シ且講義ノ參考ニ備フヘキ若干ノ圖表等ハ常ニ生徒ノ縦覧ヲ許ス又宇内ノ諸邦ヨリ蒐集シタル石質學古生物學及ヒ地質學ノ見本アリ別ニ地理ニ從テ排列シタル日本地質ノ見本一部ハ本科最後ノ使

用ニ供ス

夏季休業ノ間内國地質ノ調査トシテ教授ノ旅行スルトキハ級中優等ノ生徒數輩ヲシテ之ニ隨行セシム

第八 採礦學

採礦學ノ講義ハ地質學ノ講義ニ次テ本科上級ノ生徒ニ之ヲ授ク此學科ニ從事スル時期ハ短キヲ以テ其講究スル所ハ極メテ要領タルヲ免カレスト雖モ日本ノ採礦法ハ他國ノ理論ト實驗トヲ參考シテ詳細ニ解説ス
竟ニ確實ノ成規ヲ踏ニテ礦物ヲ搜索スル法地質ニ從テ地方ヲ細查スル良法并ニ礦物ノ藏所

ヲ測量スル法ヲ講説シ然ル後井ヲ穿テ溝ヲ掘
リ又ハ鑽鑿シテ預試スルヲ襲鑿ニ便ナル場點
ヲ撰定スルヲ礦物ノ藏所ニ達スルヲ隧道斜
面或ハ直坑ヲ造築スルヲ包括セル開礦ノ術
ヲ説キ次ニ新氣流通ノ法物品ノ運送及ヒ捲揚
方坑水ヲ放乾シ及ヒ唧除スルヲ等ヲ包括セル
地下工作ノ實際ニ適スル諸般ノ方法ヲ詳論シ
以テ此科ヲ終フ
此講義ハ木材ヲ構ヘテ造成シタル直坑斜面等
ヲ示シ又ハ捲揚及ヒ唧除ノ用ニ供スル機器運
送車轍路及ヒ採礦器等ヲ示セル數多ノ採礦雖
形ヲ假リテ説明ス
休業中生徒ヲシテ礦山或ハ鑛礦場ヲ巡廻セシ

メ歸校ノ節其遍歴中ノ錄事ヲ教授ノ許ニ出サ
シム

第九 畫學

豫科學期中ニ授クル所ノ畫學ハ第一年及ヒ第
二年ニ專ラ自在畫法ヲ教ヘ而シテ第三年ニ用
器畫法ヲ教フ

工學生徒ハ本科ニ至テ其學術ニ關係シタル圖
畫ヲ學習セシム機械工學ノ教授機器圖并ニ圖
畫推算學ヲ教ヘ土木工學ノ科ニテ地誌圖ヲ教
ユ

第十 法學

昨年印刷ノ学校一覽ニ載セタル法学ノ課程ニ
以テリ改正ヲ加フルハ日本古今ノ法律ト日本
法律ノ淵源タル支那法律トヲ一層学修セシメ
ニ爲ナリ而シテ是等ノ学科ハ三年間教授ニ從
ヒ学修セシムルヲ定規トス
課程要目左ノ如シ

第一年

第一年中学修セシムルモノハ(甲)不動産及ヒ動
産法(乙)結約法(該法ニ屬スル商業委任法、兌換證
券法、物品委託法、保險法、組合營業法、賣買法ノ旨
趣(丙)刑法及私犯法(丁)國憲ニシテ但シ國憲ハ学
フト学ハサルトヲ生徒ノ意ニ任ス

第二年

第二年ニ於テハ數種ノ訴訟法、即チ民事訴訟法、
刑事訴訟法、テニセリ(衡平法ノ義)訴訟法、海
事訴訟法、ノ如キ法律實施ノ業ヲ專攻セシム又
餘暇アル時ハ第一年ニ初メタル学科ヲ續修セ
シム羅馬法律ハ学フト学ハサルトヲ生徒ノ意
ニ任ス

第三年

第三年ニハ列國交際法ノ二支目即チ公法及私
法ト法論トヲ学ハシムルヲ以テ本旨トシ旁
前二年間ノ学業ヲ續修且復習セシメ且ツ那破
崙法律ノ要旨ヲ学ハシム總テ是等ノ学科ハ教
授ノ講義ト適當ナル書籍トニ因リテ学修セシ
ムル者トス

第十一 普通化学

無機化学ハ普通科第三年ニ之ヲ授ク其法先ッ物質ノ抱合及分離ノ總則ヲ教ヘ而後數多ノ試験ヲ交ヘテ諸元素并ニ其最要ナル抱合体ノ性質ヲ講説ス又試験室ニ於テ化学ニ須用ナル器械藥品ヲ用井生徒ヲシテ嚮キニ講室ニ於テ教授ノ示シタル試験ヲ再ヒ演習セシメ以テ化学本科ニ入ラントスル輩ヲ豫メ化学ノ反應ト手術トノ大畧ヲ知ラシム

化学本科ノ第一年間ニハ生徒ニ授ルニ有機化学ヲ以テス則チ有機物ノ百工製造ニ要用ナルモノト化学ノ理上ニ特殊ノ關係アルモノトヲ詳説シ數多ノ試験ヲ交ヘテ之ヲ講解ス

参考書目

- 一 ブロキサハ氏著 化学書
- 一 フアウンス氏著 化学書
- 一 ショーレマル氏著 炭素抱合体化学書
- 一 ワット氏著 化学字典

第十二 分析化学書

分析化学ハ重モニ化学試験室ニ於テ實地ニ之ヲ教授ス其学期ハ化学本科三ヶ年間ナリ生徒ハ先ッ金屬及ヒ非金屬ノ諸元素一般ノ性質ヲ学ビ各種ノ化学藥劑ノ製煉ヲ以テ手術ヲ習練シ然ル後專ラ諸元素ノ性質ヲ實地ニ研究セシメ以テ他日分析中其有無ヲ發見スルノ資

トス又時々生徒ニ物品ヲ與ヘテ其性質ヲ攷察セシメ各々自己ノ分析法ヲ筆記シテ之ヲ教授ニ出サシメ以テ其學術ノ進歩ヲ考試ス生徒斯リ序ヲ逐テ諸元素ヲ研究シタル時ハ乃チ諸ノ天工及ヒ人造ノ混合物ニ就テ其性質ヲ攷定セシム

生徒檢算分析術ヲ學ビタル時ハ次ニ定量分析術ヲ教授ス其法ハ極メテ簡單ノ事ヨリ始ム例ヘハ單性鹽類ヲ與ヘテ其成分ノ量ヲ定メシムルカ如シ生徒其術ニ熟達シテ信スヘキ成果ヲ獲ルニ至ラハ則チ諸ノ金石及ヒ製造物ノ分析ニ遷ラシメ貨幣及ヒ鑛類ヲ試験シ有機体ノ性質及ヒ分量ヲ分析シ食料ノ混和物并ニ毒劑ヲ

發見スルノ術ヲ教フ

第十三 製造化學

製造化學ノ講義ハ化學本科第二年第三年間ニ授ク第二年ニハ左ノ箇條ヲ講説シ而シテ講義ノ時説明セシ製造法ハ成ル丈ケ實驗ヲ以テ示シ又ハ圖式并ニ製造品ノ見本ヲ以テ之ヲ示ス

燃料及其使用

薪 泥炭 石炭

燃燒及ヒ分離ヨリ生スル品物

木炭

コーク

瓦斯 點火術

タール タールヨリ製出スル物料

理法學部

東京大学
理学部

瓦斯製造ヨリ生スル贅物

醋酸 ナフサ

鑛油 炕煖及ヒ點光ニ使用スル法

硝石 硝酸

硫黄 蒸餾精製法

硫酸、硫酸曹達、炭酸曹達製法

塩酸 塩素 晒粉

制篤斯及ヒ曹達塩類

マグネシウム アルミニウム

フローム塩 沃的母

第三年間ニ授クル箇條左ノ如シ

染料鑛物及ヒ有機物

晒布法

染物 更紗染

硝子 陶器 磁器

白堊 和土

砂糖精製法

造釀 葡萄酒製法

樹脂及ヒ獸脂 石鹼 蠟燭類

破裂物 火薬 火薬綿「ナイトログリサリ」

第十四 冶金学

冶金学ノ講義ハ先ツ最要ナル冶金法ノ大意ヨ
リ鑛爐ノ造築ニ使用シテ火力ニ堪ユベキ物料
及ヒ鑛鑛ノ用ニ供スヘキ燃料ノ説ヲ擧ケ次ニ
最モ緊要ナル金属ノ鑛鑄ニ使用セル鑛爐ト其

冶金学
理学部

東京大学
工学部

方法トノ詳説ヲ述フ此学科ハ最モ日本ニ適用
スヘキ方法ニ注意シテノ順序ヲ逐テ之ヲ授ク

鐵及ヒ鋼

銅。亞鉛。錫。鉛。

銀。金。白金。

水銀

「ニッケル」及ヒ「コホルト」

其講義ハ數多ノ圖式、熔爐、鑛類、金渣ノ見本ヲ以
テ説明シ而シテ試金術ノ實地經驗ハ必用ノ諸
器械ヲ備ヘタル冶金試験室ニ於テ第三年生徒
ニ之ヲ授ク

第十五 機械工学
メカニカル・エンジニアリング

機械工学ノ本科ニ入ル生徒ハ先ツ豫科ヲ卒業
セサル可ラス又他ヨリ來リテ入校ヲ願フ者ニ
至テハ豫科ノ課目ニ均シキ學術ノ試験ヲ經サ
ルベカラス特ニ左ノ課目ニ學力アルヲ要ス

一英語

一數學

一幾何圖法及ヒ自在畫法

一物理学及ヒ無機化学

第一年 本科下級

此学期ノ第一年ニハ生徒左ノ課目ニ従事ス可
シ

第一生徒ハ機械ニ適用スヘキ幾何圖法ヲ引續
テ學習ス可シ其演習題ハ成ルベキ大ケ生徒ヲ

理法
學部

シテ機械諸部ノ圖ヲ畫ク法ニ慣熟セシム可キ
モノヲ擇出ス生徒ハ又工學計算ノ諸種ニ適用
スヘキ圖畫推算學ノ學習及ヒ實際使用ニ多ク
其時ヲ用ユ可シ圖畫推算學ノ目次ハ則チ圖畫
算術、圖畫代數、圖畫動勢法、圖畫靜勢法ニシテ順
序ニ從ヒテ講ス但シ圖畫靜勢法ニ於テハ屢
々實際ノ使用ヲ器械及ヒ橋梁ノ諸部強弱ノ計
算ニ施ス

第二生徒ハ重學及ヒ機械構成法ニ於テ一層高
等ノ科ヲ修ムヘシ而シテ各自室内ノ練習ニ依
テ其講義ノ時説明セシ諸題諸式ノ數目ノ結果
ヲ十分ニ解得スルヲ要ス

第三生徒ハ物質強弱論ヲ學ブヘシ又各種物料

ノ形狀及ヒ大小ニ準スル比較價及ヒ時價ノ浮
沈ヲ研究シ尚ホ一層此學科ニ熟達ス可キ目的
ヲ以テ生徒ハ各自各種ノ試驗器械ヲ用テ實
驗ヲ行ヒ而シテ其經驗ノ結果ニ就テ物質ノ強
弱等ヲ算計ス可シ但シ其經驗スル所ノ物料ハ
大抵日本產出ノ物ヲ用ユ可シ

第二年 本科中級

第二年間ニ研究スヘキ學科ハ大畧左ノ如シ

第一生徒ハ物質強弱ノ理及ヒ試驗上其理ノ歸
着スル原由ヲ汽罐橋梁及ヒ機械ノ實地ノ計畫
ニ適用ス可シ

生徒ハ又熱動學ヲ通曉スヘシ殊ニ其實用ニ供
スヘキ部分ヲ詳細ニ研究スベシ其法先ツ竈中

火發生起ノ理或ハ薪炭焚燒ノ理ヲ講シ其後竈
或ハ氣罐ノ功カヲ論シ次ニ數理熱動學ヲ修メ
而シテ最後ニ熱動學ノ理ヲ蒸氣機及ヒ空氣機
ノ功カノ實際計算ニ使用スル法ヲ學ヒ且ツ蒸
氣機試驗ノ法式ヲ明カニス

第三生徒ハ又機械ノ摩擦功カノ理論ヲ講究シ
且ツ機械ノ摩擦スル諸部ノ構造ヲ論スル講義
ヲ聽聞スヘシ此年ノ第二期ニ生徒ハ工場實驗
ノ最要ナル詳説ヲ學ヒ且ツ機械ヲ運轉セシム
ヘキ力ノ計算法ヲ學ブベシ

第三年 本科上級

第三年間ニ生徒ノ學習スヘキ學科ハ全ク實地
ニ涉ルモノトス

第一海陸蒸氣機及ヒ翅蝶等ノ計畫ヲ詳細ニ講
解シ而シテ入費ノ見積及ヒ圖式ニ關係スル諸
ノ必要ナル計算ハ生徒ヲシテ自ラ之ヲ做サシ
ム若シ餘暇アルトキハ講義ヲ以テ機械器具及
ヒ造船ノ計畫ヲ説示スヘシ
第二屬水工事港灣工事市井放水法ニ適用スベ
キ器械用法ニ此年ノ一部ヲ用ユヘシ

第三生徒ハ此年ノ間重モニ計畫室ニ於テ其時
ヲ費ヤシ且ツ工業必需ノ書籍ヲ習讀スルモ各
生徒ノタメニ指定スル實地工業及ヒ参考書籍
ハ其修メント欲スル所ノ工學ノ課ニ從テ同シ
カラガルヘシ

第十六 土木工学

東京大学
工学部

土木工学ハ機械工学ト課程ヲ同フシ工学科ノ生徒之ヲ学修ス其課目ハ如シ

第一第一年ノ間ハ生徒専ラ陸地測量ヲ講習シ野用器械ノ用法ヲ学ビ實地測量ヲ為シ而シテ必要ナル圖面及ヒ計算ヲ作為ス可シ

第二此年ノ間ニ又水準測量法并ニ地誌必需ノ諸法「プレーンテーブル」測ノ用法ヲ教授ス

第三前條ノ課目ト共ニ生徒ハ測量シタル土地ノ分圖及ヒ全圖ヲ作ル方法及ヒ地誌圖ニ用フル常用記號ノ法式ヲ学修ス

第二年ノ課目ハ左ノ如シ

第一道路修造法即チ地所ノ撰定法道路ノ築造

法路床ニ用フ可キ物料及ヒ市中鋪石法等ヲ課ス

第二鐵道測量學即チ鐵道線ノ地形調査水準測量法弧線路掘鑿并ニ堤防ノ指標及ヒ計算着手スヘキ工業ノ部分ケ圖及ヒ詳細書ヲ製出スル法等ヲ課ス

第三工業ノ經營ニ用フヘキ物料即チ木材煉化石金屬石類并ニ亞土及ヒ和土等ヲ課ス

第四木石及ヒ鐵ヲ以テ築造スル諸工木石或ハ鑄鐵ノ材ヲ以テ築造スル橋及ヒ釣橋ヲ課ス

第三年ノ間ハ生徒ヲシテ測地學及ヒ屬水工業ニ關スル課目ヲ学修セシム

第一測地學ヲ課シ講義ヲ以テ三角測量法測地

東京大学
工学部

東京大学
文理学部

星学、及ヒ地球ノ外形ニ關スル問題ヲ説明ス

(第二)溝渠水門、水樋、乾地ノ灌溉、及ヒ市中ノ放水
法ヲ課ス

(第三)船行スヘキ河底ヲ修整シ、且ツ其堤岸ヲ防
禦スル法ヲ課ス

(第四)海岸ノ修整法、即チ港灣、船槽、埠頭等ノ造築
等ヲ課ス

右諸課ノ授業方法ハ都テ實地ニ關涉スルモノ
ニシテ器械ノ取扱、及ヒ繪圖、及ヒ計算ノ方ヲモ
併セテ習練セシムベシ

物理学科要畧

本校設置ノ佛語ヲ以テ教授スル物理学本

科ノ目的ハ該学高尚ノ諸科ヲ教授セシム
ルニ適當ナル教員ヲ育成スルニ在リ故ニ
該学ニ數學及重学ノ二科ヲ加フ是則物理
学中近世發見ノ理論ヲ説明セント欲スル
必ス數學及重学ノ二科ヲ講究スルニ非サ
レハ能ハサルヲ以テナリ

第一 物理学

豫科 初步物理学

物理学ノ目的

物體普通ノ性質

重学初步大意

重力学及静水学

東京大学
理法部

熱學
磁學

第一年 初步物理学

静越歴学

動越歴学

磁電作用

聴学

幾何視学

第二年 高等物理学

第一年 重力学

掛擺理論追補

重力ト六合ノ引カト同一ナル論

地球ノ表面ニ於テ重力ヲ變化セシムル諸原

素ノ精算

氣體静勢学追補○自點晴雨儀○晴雨儀整定

法○晴雨儀ヲ以テ土地ノ高低ヲ度ル法○液

體中氣體溶解律○毛狀管液潤作用

第二年 熱学

寒暖ヲ度ル法第一ハ固體液體或ハ氣體ノ膨

脹ニ因テ度リ第二ハ複合體ノ分離力ニ因テ

度ル法、不結晶若シクハ結晶ノ固體(膨脹ノハ

角體及側圓體)液體及氣體ノ膨脹

射熱○デュロンプナニ氏失熱律

第三 磁学

磁氣曲線ノ方程式

カウス氏試驗

第四 動電作用及磁電作用

流電ト流電ノ作用及流電ト磁氣ノ作用

○全上ノ結果

第五 實驗

第三年 高等物理学

本年ハ微積二法ノ算計ヲ要スル近世
發見ノ学科ヲ授クルタメニ備フ

第一 聴学

同質物中震動ノ廣衍

震動ノ組立

全上ノ活用音響ノ廣衍○鳴管震動線及ヒ震
動板

第二 視学

精氣ノ震動○波狀及彈力ノ面

光波ノ反射及屈曲

フイブー氏及ヒフリーコー氏光線ノ速度驗定

法

天然光線ノ感觸○フレズネル氏諸鏡ノ混明
線二重三稜玻璃柱ニユートン氏複輪光線岐
行及明暗線○光波ノ長サヲ度ル法

直線聚極○光線感觸○側圓聚極

帶色震極○單軸及複軸水晶中ノ混明線及中

立線○輪旋聚極○驗糖器

第三 實驗

第二 數學

豫科

算術 幾何學 代數學 三角法 畫法幾何學

第一年

追補代數學

ニウトニ氏合名法○不盡聯數○代數對數○派式理論○代數及不直接方程式理論及其解法

平面代數幾何學

直線○圓○第二級曲線○中心、經心線、觸線、漸近線及ヒ燒點、理論○直線極點、二定位式ニ於テ曲線ノ作為法○類似法○包含線○圓柱形及圓錐形面ノ平截

立面代數幾何

直線○平面○球○第二級曲面ノ理論○側圓形曲面○雙曲線形曲面及其漸近圓錐○擲物線形曲面○圓錐形及圓柱形曲面○旋轉曲面

畫法幾何學

(理論及幾何圖)

錐形及柱形曲面及旋轉曲面ノ觸面○圓錐形圓柱形及旋轉曲面ノ平截○錐形若シクハ柱形二曲面ノ相截線○二旋轉曲面ノ軸々相遇フ者ノ相截線○第二級ノ一切曲面ノ相截線

○陰画法

第二年 高等数学

高等代数学

俾定數理論○除去法理論

微分

諸自變數之函數ノ諸級微分○増極及減極ノ理論○單曲線複曲線及曲面ノ理論○曲面上畫線ノ理論

第三年 高等数学

積分

微分ノ還原○定積分ノ理論○積分術ヲ用テ

曲線ノ積及長ヲ求ル法○層積分ノ理論○積分術ヲ用テ曲面ノ平積及曲體ノ立積ヲ求ル法

微分方程式ノ總論○二個ノ自變數ヲ有スル第一級及第二級以上ノ微分方程式還原○部派式ヲ有スル方程式還原
數理熱論

第三 重学

第一年 初步重学

静勢学初步

運動学初步

動勢学初步○力ノ作用

最モ單簡ナル機械即チ桿、天秤、滑車及列滑車、廻軸、舉重器、斜面、○轉力規律及應用

第二年 高等重学

論理重学

(運動学ハ數學中ノ微積分ニ法ヲ要スルヲ多キガ故ニ本年茅二期微分法已ニ進歩ノ後ヲ俟テ之ヲ授ク○凡ソ一理論ヲ教シハ必ス一々其應用ヲ授クヘシ)

茅一 靜勢学

靜勢学ノ原則
同一點ニ受タル所ノ衆力ノ組立○力率

平行力ノ組立○力率○重心

一切力ノ組立○力率○均勢方程式

雙力ニ由テ力ヲ組立ル法○雙力理論

定地ヲ有スル點若シクハ固體ノ均勢

綱類ノ受ル所ノ力ノ均勢○鈎槁○屈折スヘ

キ糸ノ均勢○小鎖

第二 運動学

速度及其分素

加速度及其分素

高等ノ加速度

關係運動

茅一 一平面上他平面ノ移動○瞬時轉心

○臺及轉柱

茅二 一定點ノ周圍ニ一固體ノ移動○瞬

時轉軸○臺及球形轉柱

茅三 一固體ノ不定移動○瞬時轉軸及輻

軸○臺及圓錐形輻柱

關係運動中集成化速度

コリオリ氏定則

運動ノ組立

第三 動勢學

第一 單點ノ動勢

原則

不易力ニ因テ起ル所ノ運動

カト加速度トノ關係

直線運動○等時線

曲線運動○彈丸ノ運動

重學積分

活力方程式○水平ノ面

力ノ作用

一曲線上一點ノ運動○最短時線○掛擺○平

積ノ原則

一平面上一點ノ運動

一ノ自在點ノ運動○中心力及星學中應用

關係運動

第二 複點ノ動勢

重心ノ運動

力率保存ノ原則

活力ノ原則

關係運動

惰力率

一定軸ノ周圍ニ一固體ノ運動

一定點ノ周圍ニ一固體ノ運動

一ノ自由固體ノ運動

衝突

物體ノ觸撃

靈速度ノ原則

第四 静水学及動水学

第五 諸器械理論

第三 内外教員任補轉解

本学年末外國教授ノ現員拾七人内國教授及同補合テ拾人雇教員以下門衛ニ至リ其數五拾名

人此他東京博物館ト共雇ノ外國人一名アリ乃
チ茲ニ本年一月ヨリ八月ニ至ル間内外教員ノ
新任解職ニ係ル者ノミヲ左ニ掲ス
一月十七日青森縣人山川健次郎教授補ノ任ヲ
嘱セラレ物理学教授ヲ補助ス○四月二十四日
東京英語学校二等教諭兼本校教授補井上良一
上等教授ノ任ヲ嘱セラレ英國法律ヲ教授ス而
シテ仍ホ英語学校教諭ヲ兼ヌ○五月十二日静
岡縣人外山正一上等教授ノ任ヲ嘱セラレ製作
学教場ノ教務ヲ擔任シ兼テ豫科生徒ニ無機性
化学及論理学ヲ教授ス○六月十二日教授補正
木退藏文部省ハ等出仕ニ補セラレ翌月ニ至リ
英國留学生監督ヲ命セラレ

二月十五日金石及地質学教授マニロー氏満期ヲ以テ解職シ米國ニ歸ル○三月十一日獨逸人ナウマニ氏ヲ以テ金石地質採礦学教授トス氏ハ前年在獨全權公使青木周藏氏ニ囑シテ特ニ招傭セル人ナリ然ルニ其来著ノ際會々鑛山学處分ノ期ニ當レルヲ以テ爾来文部省ニ於テ暫ク内國金石ノ調査ヲ囑セリ是ニ至テ該科ノ教授トシ英語ヲ以テ教授ニ從事セシム○四月一日此日ヨリ七月十日ニ至ルノ間東京醫学校教授獨逸人ラニガルト氏ニ製作学教場化学教授ヲ囑シ三田製紙所雇同國人ハイゼー氏ニ同工学教授ヲ囑ス是レ前月内務省ノ請求ニ應シ製作学教授ワケネル氏ヲ本月ヨリ五ヶ月間同省

ニ貸シ米國費府博覽會ニ派遣サレシヲ以テナリ○六月七日数学教授佛國人ベルソン氏来著ス氏ハ前年在佛臨時代理公使中野健明氏ニ招傭ヲ囑セシ人ナリ○七月八日米國人ロツクウエル氏十五日佛國人クロツツ氏ノ願ニ依リ共ニ歸國セシムロツクウエル氏ハ九月十日クロツツ氏ハ同十二日ニ至ラサレバ條約ノ期滿タスト雖モ本月十一日ヨリ九月十日ニ至ルニケ月間ハ夏期休業ナルニ因リ仮令滞在セシムルモ業ヲ執ルノ日僅ニ一二日ニ過ギサルヲ以テ乃チ満期ノ給料ヲ交付シ歸國スルヲ許スナリ○二十三日英國人ブライエル氏ヲ動物捕集者トシテ東京博物館ト共ニ傭シ往復三ヶ月間

ノ期限ヲ以テ四國及和泉紀等ノ諸列ヲ巡廻シ
偏ク動物ヲ捕集セシム

第四 海外留學生派遣

本年四月文部省再ヒ留學生ヲ選舉シ海外ニ派
遣スベキ旨ヲ公告ス（本年文部省報告書）是ニ於
テ當校本科生拾人其撰ニ當リ八人ハ英國ニ貳
人ハ佛國ニ派遣セラレ即チ法学中級生入江陳
重向坂兄岡村輝彦ハ英國倫敦キングス
レージニ及第シ同所「ミッドル・テン・プル」（法学）
ニ入社シ化学中級生櫻井錠二工学中級生關吉
清景ハ同國倫敦「ユニバーシティ・カレッジ」ニ
化学中級生松浦重剛ハ「サイレンセスター」ノ農
学学校ニ工学中級生増田禮作「グロウズ」ハ蘇國

「グラスゴト」大学校ニ物理学下級生沖野忠雄山口半六ハ
佛國「エコール・サント・ラール」ニ入学シ考試皆甲ニ居ル此
ニ由テ考テハ前年米國ニ派遣セル生徒ノミナラス當
年英國ニ派遣スル者モ皆善ク其考試ヲ完ウスルヲ得ル
ハ即チ本校生徒ノ學業進歩セルヲ證スルニ足ルヘリ又
以テ兩三年来改定ノ教科授法ノ正當ヲ去ル遠カラサル
ヲ徵スルニ足ルベキナリ

第五 生徒進歩ノ概況并諸教授申報ノ抄譯

當學年ノ末本科中級ノ課目ノ試験ヲ完ウル學年ノ始
メ同上級ニ昇ルベキ者三人（本年同級生中他ハ人海外ニ派
遣セラレ）豫科ヲ卒ル本科ニ進ムベキ者五拾四人トス即チ本科ニ入
ルベキ者前學年ニ比スレハ六人ノ多キニ至レリ而シ
テ各學生徒ノ踐修スル課目ヲ言ハハ法学中級生ハ英國

東京大学
法學部

法律ノ諸目并ニ列國交際法ノ公私兩目等ノ概要ヲ修メ
化学中級生ハ定量分析、檢質分析及製造化学、地質学、物理
学實驗等ニ熟修シ工学中級生ハ熟動學理論及應用結構
強弱論、機器圖、機器功力、鐵道測量及築造、地質学、物理学實
驗等ヲ熟修シ法、化、工、三学ノ下級生ハ同中級ノ昨學科中
踐行セシ課目ヲ履修シ豫科各級生徒ハ先進生ノ曾テ踐
行セシ課程ヨリモ尚ホ一層完備ニ涉レル普通課諸目ヲ
履修シ物理学(佛)及製作学各級生徒モ亦能ク成規ノ課目
ヲ履修シ而シテ定期ノ試業モ全ク卒ルニ至リ即チ右ノ
如クナハ諸学各級生徒中僅ニ數名ヲ除ク外其業等シク大
ニ進歩スルヲ觀ルニ足ルベシ但シ昨豫科等級表ヲ改定セシ以來
従前每級學カノ等差半年ナル者ヲ一年トナスニ由リテ豫科上級中ニハ
其本科ニ入ルニ當リ勢ヒ半年間超進セシメサルヲ得サル者アリ例ヘバ當學年(昨學年)始メ九月

編入スル本科下級生中豫科第二級ヨリ入者ノ
如キ即チ半年間超進セシムル者ニシテ若シ夫
レ當學年中其業ノ進歩ノ駿速ナラサルニ似
ルニ似タルアルハ是レ其豫科ニ在ルノ日課業
ノ稍々充分ナラサルニ由ルモノニシテ後來生
徒ノ勉學ニ因リ漸次其不足ヲ補ヒ必ス竟ニ豫
科第一級ヨリ順次昇進スル者ハ相對峙スルニ
至ルヘキナリ寔ニ斯ノ如ク諸學生徒ノ大ニ其
學業ヲ上進スルヲ觀ルハ金ウ諸教授ノ勉倦
マサルノ功ニ由ルト為スヘシ乃チ茲ニ諸教授
ノ申報ヲ抄譯シ以テ尚其詳悉ノ實況ヲ示ス
諸教授申報抄譯
法學教授グリグスビ氏申報ノ略ニ曰ク現ニ法學

生徒ノ學業大ニ進歩シタルハ七月試業ノ結局
評點數ヲ以テ之ヲ徴スルニ足ルヘシ而テ生徒
ノ皆能ク勉勵シテ其課程ヲ踐修セルハ復タ
ヲ須タス且ツ察スルニ本年派遣ノ海外留學生
モ亦能ク其業ヲ修メ各其學セル大學校ニ信
用ヲ得タルナルヘシ

化學教授アトキンソン氏曰ク化學本科中級生徒
ハ前學期ヨリ分析化學ヲ續修シ各種ノ天產物
即チ鑛銅等ノ分析ヲ爲シ其經驗ニ因テ大ニ學
識ヲ増スニ至レリ同下級生徒モ亦能ク檢質分
析ノ業ヲ修メ學期ノ終リニ際シ其業大ニ進歩
シ定量分析ノ學修ヲ始ムルニ至ル又製造化學
ニ從事スル生徒ノ進歩ハ實ニ美ミスヘキモノ

アリ但其中生徒兩名ノ學力遠ク他生ニ及ハ
スシテ終ニ退學ヲ要スルニ至レリト雖モ然レ
モ化學生徒一般ノ學力優劣ニ至テハ本年ノ
終リニ出ダシタル平常講習及ヒ試業ノ評點表
ニ於テ之ヲ詳カニスルヲ得ヘシ又本科中級中
三名ノ現ニ留學生ト爲リテ英國ニ赴キシハ固
ヨリ該生徒ノ大益タルヲ余ノ信ズル所ナリト
虽モ然レモ之カ爲メ本校ヲ退去シタルハ又余
ノ痛ム處ナリ

機械工學教授スミス氏曰ク本年二月ヨリ七月ニ
至ル學期中ノ事業ニ就キ特ニ申報ス可キ者ナ
シト虽モ工學本科中級生徒ハ常ニ刻苦シテ難
解ノ學科ヲ修メ此勉勵ニ因テ其業大ニ進ム

但爾後英國留學ノ命アルヲ以テ本校ニ在リ其
學科ヲ修ムルヲ停止同下級生徒ハ概スルニ
其學業頗ル進歩セシ^モ虽其中三名ノ者ハ為ニ
賞詞ヲ付スル能ハサルモノアリ就中一名ハ當
期ノ初ニ際シ其學業少シク進歩スベキ^モ狀況
アリシト雖他ノ二名ノ如キニ至テハ之ト反シ
曾テ其進歩ヲ見サルノ状ニ近キニ至レリ
土木工學教授ワスレン氏曰ク工學本科中級生
徒ハ海外ニ留學セシカ為メ學年ノ終リニ先ダ
テ校ヲ去リシ故ニ其學業ヲ考試スル能ハズ又
一學期ノ課程ヲ終ラザルヲ以テ茲ニ之ガ申報
ヲ省ク同下級生徒ハ下級ノ課程即チ代數幾何
微分積分及陸地測量學ヲ卒ル地誌圖學モ亦本

期課程ノ一部タリト虽モ圖學ノ模型ヲ得ル遲
カリシヲ以テ余ノ望ム如ク教授ヲ充分ニスル
ヲ得サリシノミナラス教授上ニ於テ案外ノ不
便ヲ生ゼリ然シ談摸型ハ學年ノ終リヨリ二三
週前ニ到着セルヲ以テ次ノ學年ニ於テハ地誌
圖學ノ概旨ヲ學ハシムルヲ得ベシ尤當學期既
ニ談科ノ學修ヲ始メタルヲ以テ生徒等少シク
其理ヲ略知スルニ至レリ而シテ其他ノ學科ニ
至リテモ生徒ノ多數ハ其學力ニ進歩^セルヲ
見ル但其中二名ハ評點^數ヲカラサルモ到底其業
ヲ卒^ラフ可キヲ信ス然^レモ別ニ二三ノ學科ニ就
テ談生徒ノ學力進歩セサルハ余ノ豫メ期スル
所ニ違ヘリ就中數學ヲ最トス此ノ如ク二三ノ

學科進歩ノ迅速ナラサル所以ノモノハ蓋シ余輩ノ力ヲ以テ之ヲ如クシントモスル能ハザルノ由縁アルヲ以テナリ。況無シ其豫科ニ在ルニ方テヤ學科ヲ進修セシムルノ急ナルニ過キ之カ為メ他日難解ノ科目ヲ修ムルニ要ナシ。學術預修ノ充分ナラザルニ直チニ本科ニ進入シタルヲ以テノ故ナルヘシ。且ツ數學ノ一科タル一進歩モ必ス初ヨリ學ヒ得タル處ノ數理ニ由テザレバ之ヲ進修スル能ハス。此故ニ數學ノ預修充分ナラザレハ他ノ學科ニ比スレハ其進歩ノ極メテ困難タル言ヲ待タサルナリ。又數學ハ重學及ヒ各種測量學ノ基礎ニシテ工學專門ニ入ルニ最モ緊要ナル豫科タリ。尔後生徒ノ豫科ニ

在ルニ方テヤ一層諸學ノ預修ニ意ヲ用井シメ以テ本科ニ入ラシムヘキヲ將來ニ希望スル所ナリ。余ノ豫科各級ニ教授スル者ハ幾何畵學ノ一科ノミ而シテ豫科一級生徒ハ前期少シク幾何圖學ヲ修メタルヲ以テ本學期中該科ヲ卒ラシメンカ為メ意ヲ此ニ注キ斟酌以テ之ヲ教授セリ。因テ該科支目ノ問題數項ヲ學ヒ卒ルヲ得ルト雖モ攻修ノ日僅ニ一年ニ過ギサルヲ以テ夫ノ二年間ニテ修メ得ル如キ完全ヲ望ム能ハザルナリ。豫科二級甲生徒ハ次學年ノ初メヨリ直チニ本科ニ入ラシム可キ者ナルヲ以テ豫科一級ト均ニキ學カラ有ルニ至ラシムルヲ要スト。畵學教授上ニ於テ大ニ難シスル所ナリ。何

ニトナレハ豫科第一級生徒ニ比スレハ二級甲
ニ在ル生徒ハ画學ヲ修ムル日尚淺クシテ幾何
圖等ハ未タ曾テ學修ス加之画學ノ授業時間
モ還タ一級ヨリ多カラサレハナリ而シテ余ハ
此ノ現状ニ關ハラズ勉メテ画學中其省キ得
キ者ハ之ヲ省キ以テ其梗概ヲ教授セシト虽モ
然レモ余ノ意ハ画學ノ豫修ヲシテ充分ナラシ
メ而テ後チ本科ニ入ラシムルヲ以テ固ヨリ可
トスル所ニシテ就中工學生ノ如キニ至リテハ
最モ忽ニスヘカラサルモノトス豫科二級乙生
徒ニ画學ヲ教フルヤ上ノ兩級ト稍々異ナル方
法ヲ以テセリ何ントナレハ該生徒ノ如キハ豫
科二級ノ課程ニ從ヒ二年間画學ニ從事シ得ヘ

キヲ以テ敢テ勿々ニ之ヲ學ヒ卒ルヲ要セサレ
ハナリ而シテ其學業ノ進歩ニ至リテハ大ニ嘉
ミスルニ足ルモノアリ然リ而テ尚細カニ画學
ヲ攻修セシメシカ為メ之ヲ學フノ期ヲ永ウス
ルノ鴻益タル且ニ次學年ノ終リニ方テ該生徒
ノ本科ニ入ルニ適當ナル學カヲ有スルニ至リ
自ツカラ判然其効ヲ見ルベシ

物理學教授ウ井タル氏曰化學及工學中級生徒ハ
物理學實驗室ニ於テ前學期ニ續テ其業ヲ從
事ス而シテ之ニ重要ナル數多ノ試験ヲナサシ
メ其試験セシ者ヲ丁寧ニ算定シテ之ヲ小冊子
ニ載録セシメ且ツ物理學ノ講義ヲ授ケビツケル
リンゲ氏ノ物理學用器術ヲ講習セシム而シテ

其學修ハ時ハ僅ニ一週内三時間ニ過キスト
モ其業大ニ進メリ物理學教授補山川氏ハ物理
學實驗ノ際生徒ヲ賛育スル鮮ナカラス又器械
ノ新規製造ヲ監視シタルヲ以テ學校ノ便益少
ナカラス化學及ヒ工學下級ニテ週中三時間講
義ヲ授ケ高等物理學ヲ修メシガノ一氏物理學
書ヲ用ヒ靜動越歷學及磁電作用ノ試験ヲ作シ
以テ其理ヲ講明セリ余ハ緊要且難解ノ該學科
ニ就キ最モ新良ノ説ヲ生徒ニ教示スルニ勉
セリ又物理學ヲ講究スルニ數學ノ法式ヲ適用
スルヲ習ハシメ以テ他日物理學實驗室ニ於
テ自カラ試験ヲ行フ可キノ地ヲ成サシム豫科
第一級化學及工學生ニトツドバンテル氏及ビベック氏

ノ重學書ヲ續習セシメ一週一次談學ノ講義ヲ
授ケ又法理兩學豫科生ハ共ニ一週二次ノ講義
ヲ受ケ萬有物理學ヲ修メ而シテ物理學ノ問題
ヲ解釈シ又余ノ講義セル物理ト事實ヲ究ムル
ニ勉勵セルコト余ノ歎美スル處ナリ又萬有物
理學ノ一科タル星學ハ教授パーソン氏ニ從テ學
修セリ豫科第二級生徒ハ一週三時ヲ講習時間
トシ以テステワルト氏物理學書ヲ卒リ又熱學
視學磁氣電氣流電氣ノ重要ナル試驗ヲ親視セ
シムルニ方テ之カ物理ヲ解説スルニ丁寧反覆
極メテ明瞭ナルヲ主トセリ加フルニ第二級甲
生徒ニ一週二時間ニテチール氏著書ニ就テ星
學ノ概要ヲ學修セシメ又トツドバンテル氏重學

東京大学
文学部
経済学
部

書ヲ習讀セシム而シテ其業ハ概テ進步スルヲ見ル

博物學教授マツカテ曰ク豫科第一級法學生徒ニ羅旬讀本ヲ讀マシメ之ヲ反譯シ且ツ其文章ニ就キ自カラ文法ヲ講述スルヲ勉メシム然レニ此學ニ入テ僅ニ數月ニ過キサルカ故ニ深ク談語ヲ学バシムル能ハサルヲ遺憾トス而テ豫科第一級法理學生徒ハ羅旬讀本ヲ終ヘシハサルスコンメンタリス第四卷シ、ロー演說第二卷及ジャステニアニ帝條例第一卷ヲ反訳セリ且談級生徒ヲシテペリー氏經濟書ノ要領ヲ習讀セシム而テ法學生徒ハ嘗テウェーランド氏經濟書ヲ學ヒ本學期中ハ帝ニペリー氏著書ヲ涉獵スルノミナラス

且ツニル氏所著ノ經濟書中緊要ナル諸篇ヲ習讀討論シ以テ其試驗ヲ受ク所謂緊要ナル諸篇ト稱スルハ即チ地所及徵租ノ篇ニシテ其ペリー氏著書中ニ論スル者ヨリ一層詳細ナルヲ以テ茲ニ之ヲ學ハシムルノミ而シテ理學生徒モ亦經濟學ヲ修ム抑々經濟學ハ現今欧米諸學校ニテ最も重シスル所ニ係レリ顧フニ談生徒モ經濟學ヲ學ブノ益アルヲ知リシ者ノ如ク豫科第二級甲生徒ハ之ヲ豫科第一級ニ進入セシメズシテ直チニ本科ニ進入セシムルノ目的ニテ學年ノ終リニ試験ヲ受クシムベキハ校議既ニ決スル所ナリ而テ羅旬讀經濟學ノ二科ヲ修メ第二學期ヲ終リニ際シ其學業大ニ進捗ス豫科第

東京大学
文学部
経済学
部

二級甲理學生ハ人身及比較解剖學ヲ卒ヘ植物
組織及解剖學ニ從事セリ同第二
級乙生徒ハ人身及比較解剖學ヲ終ヘハ前期
動物學ヲ攻修シ而シテ級中一部ノ生徒ハ前期
ニ比スレハ其學稍々進歩ノ速ヲ表セリ豫科第
三級甲生徒ハ人身及比較解剖及生理學ノ科ヲ
卒ヘ又昨年少シメタル植物學初歩ヲ當學期ニ
復習セシメ又其學ハザル處ヲ統修セシム豫科
第三級乙生徒ハ級中二三ノ生徒ヲ除クノ外皆
黽勉シテ人身及比較解剖及生理學ヲ卒ヘ且其
所定科目ノ外植物學ヲ教授シ植物ヲ解剖シテ
其見本ヲ製シ之ニ目錄ヲ附シ其種類ヲ詳明ナ
ラシム豫科三級丙生徒ニ教授セシモノハ唯人

身及比較解剖及生理學ノミナリ
地質學教授ナウマン氏曰余ノ教授スル所ノ生徒
ハ工學及化學中級豫科第一級同第二級甲ナリ
就中二級甲生徒ハ勉勵ニシテ才力品行共ニ賞
譽スルニ足ルト雖モ奈何セシ金石學ニ從事ス
ル時間ノ甚タ短カキト學業ノ甚タ芳端ナルト
ニ因リ該學ヲ修ムル極メテ充分ナラサルヲ
是レ最モ遺憾トスル所ナリ豫科第一級生徒ハ
其學業大ニ進歩シ已ニ地質學ノ大意ヲ學ヘリ
而テ化學工學下級生徒ノ進歩ハ上ニ述ル各級
生ノ如ク充分ナラス加之該下級生徒ニハ今專
ラ地質學總目ノ概畧ヲ知ラシムルニ勉メリ故
ニ沿革地質學ノ講義ヲ授クル能ハス因テ唯地

文及寢原地質學石質學ノ概畧ヲ教授スルノミ
化学工業中級生徒ハ採鑛學ノ講義ヲ受ケ其學
業大ニ進歩シ採鑛學ノ總目ヲ終フ
数学教授バーン氏曰豫科第一級生徒ノ數學ヲ
修メ其學業ノ進歩スルハ從來豫科ヲ終リタル
生徒中ノ最タル者ニシテ前ノ豫科第一級生徒
ニ比スレハ殆ント六ヶ月間ノ課程ヲ進修セリ
乃チ工學教授モ大ニ之ヲ賞譽セリ同第二級ハ
甲乙ノ二部分アリ而テ其生徒ノ學力各相均シ
カラス故ニ甲生徒ハ學年ノ終リニ方リテ本科
ニ入ルニ切要ナル學科ノ試験ヲナシ合格ノ者
ハ本科ニ進入セシム可キヲ議定セリ故ニ豫
科二級生徒ハ非常ノ勉勵ヲ以テ所定ノ學科ヲ

修メ加フルニ課外ノ學科ニ從事セリ豫科二級
乙生徒ハ次ノ學年ニ於テ豫科第一級ニ進入セ
シムヘキ者ナルカ故ニ通常所定ノ課程ヲ踐修セ
シム故ニ其學業進歩ハ稍々甲生徒ヨリ劣ル者
アリ同三級ハ甲生徒ノミ余ニ從學セリ然レモ
余ノ之ヲ教授スル僅ニ數月ニ過キサルヲ以テ
茲ニ申報スベキハ只該生徒ノ代數學ヲ終リタ
ルヲ掲クルニ過キサルノミ
製作學教場教務掛ヨリ申報ヲ畧ニ曰ク本年一
月ヨリ三月マテニ製作學教授ドクトルワグ子
ル氏ハ製煉豫科第一級同第二級生ニ百工化学
講義并實地製煉模寫圖法ヲ工作豫科第二級生
ニ工作學講義并模寫圖法ヲ授ク然ルニ四月ニ

至リ同氏米國費府博覽會ニ赴キシニ因リ獨逸
人ドクトル、ランガルド氏及同國人ハイゼイ氏ヲ
以テ暫ク之カ代員トス是以ランガルド氏ハ製煉
豫科第一級及第二級生ニ定量分析講義并實地
分科ヲ教ヘハイゼイ氏ハ工作豫科第二級生ニ
工作學講義并模寫圖法ヲ授ク又教授外山正一
ハ六月ヨリ製煉豫科第二級生ニ有機化學ヲ講
義シ教授補熊澤善庵ハ一月ヨリ五月マテ五ヶ
月間製煉豫科第一級生ニ實地製煉并實地定量
及定性分析ヲ授ケ同第二級生ニ有機化學ヲ授
ケ又ランガルド氏及ハイゼイ氏ノ講義ヲ譯授ス同
上野繼光ハ各級生徒ニ幾何三角代數學等ヲ始
メ靜動重學ノ大意ヲ教ヘ助教負和田維四郎ハ

製煉豫科第一及第二級生ニ金石學ヲ授ケ製作
教負長田銀造ハ工作豫科第二級生ニ實地工器
試用ヲ教ヘ助教負庄司一簣ハ製煉豫科第一級
生ニ實地製煉ヲ教ヘ秋元次郎ハ同第二級生ニ
定性分析講義并實地分析ヲ授ケタリ而シテ各
級生徒皆應分ノ進歩ヲナセリ

第六 書籍器械準備ノ概略

客年中内外書肆ニ命シ英米仏三國ヘ注文セシ
書籍本年ニ至リ舶送スル者英書二百五十九種
ニシテ部數九百三十九冊數千三百二十九及仏
書一部一冊ナリ且本年英米兩國ニ注文スル者
英書百八十種ニシテ部數千三百三十冊數千五
百三十二外ニ獨逸書一部一冊ナリ此内十種ニ

シテ部數十二數二十八已ニ輪齋セリ又内國書肆ヨリ臨時購入スル者英書百二十九種ニシテ部數三百四十六冊數四百四十仏書九種ニシテ部數十七冊數二十和漢書二百十六種ニシテ部數二百七十二冊數三千六百八十八ナリ此外他ヨリ交付及納付セル者和漢洋書合テ八十四種ニシテ部數百八十八冊數千五十五ナリ即チ本年一月ヨリ八月マテニ増加スル總數六千五百五十三冊ニシテ拂下ニ因リテ減少スル者千六百四十三冊アリ本年僅ニ八ヶ月間ニ於テ藏書ノ數既ニ前年ヨリ増加スルヲ四千九百拾冊ノ多キニ及ベリ故ニ斯ノ如クニシテ年々漸ク以テ専門科用ノ書籍ヲ準備セハ遂ニ大學書庫ヲ

設立スルニ至ラン丁期シテ待ツベキナリ客年年報ニ記載セル英國倫敦ダビット、キルカ、ルデー氏及チエスタル之ダエームス、リッグ氏ニ注文ノ工學用器械及模型等ハ本年已ニ到達セリ又同年英米西國ヘ注文セル物理學器械未着ノ分ハ事故アリテ其購入ヲ止メタリ又本年物理學化學、測量等ノ諸器械及ヒ工作場所用ノ器械並樂品ヲ英、仏、獨、米ニ注文ス其價大約七千五拾餘圓ナリ此諸品ハ明年中其輪着ヲ期セリ金石學地質學見本ヲ準備セン為メ本年夏期休業中金石地質學教授ドクトル、ナウマン氏ヲシテ生徒三名ヲ率ヒ上野信濃越中越後岩代等ノ諸國ヲ巡迴セシメ該地方ニ於テ金石及岩石等

合テ四百箇化石一百餘塊ヲ採集セシノ皆識別
 調査シテ之ヲ列品室ニ陳列セリ
 本年一月中旬ヨリ八月下旬ニ至リ製作学教場
 ノ工作場ニ於テ製造スル物理学用品及器械二
 拾九化学用品及器械八拾、工學用器械及雛形二
 十、圖画術用器械及雛形三百七十五、合テ五百四
 箇ニシテ其數前年ヨリ多キ三百二十拾五、又藥品
 製煉所ニ於テ製造スル藥品三十種ニシテ其數
 前年ヨリ増ス八種ナリ而テ器械名目ノ如キハ
 之ヲ詳記スルモ益尠キヲ以テ本年ハ別ニ其表
 ヲ製セス卷末ニ登載セル器械表中ニ新造ト記
 シ又藥品表中ニ新製ト記シテ其箇數ヲ挙クル
 モノハ即チ此場所ヨリ製出スルニ係レリ

書籍表

八月々末調査

書名	在末數	増數	減數	存在數
天文書	二一四	二	一六〇	一〇五八
地理書	一一一六		七四	一三一八
物理書	一三三五	五七		八七九
博物書	七三〇	一九五	四六	八二〇
性理書	七一一	一一九	一六	一一三八
法律書	八七一	二七七	一〇	二三四
經濟書	二四六	三五	四七	一九六一
史傳	二〇五八	二一五	三一二	二六四
兵書	二六四			二六四
工學書	一五六	二一七	一二	三六一

[illegible]

器械及罐形類一覽表

明治九年一月ヨリ八月迄

名
名
全
來
文

曾

文

或

字在後

年ヨリ

給	養	二	豫	科	學	同	同	三百五拾	四
書	籍	掛	三	數	學	同	同	三百五拾	四
器	械	掛	二	物理學及重	學	同	同	三百	四
製	煉	掛	二	數學及畧	學	同	同	二百五十	四
製作學	教場	掛	一	文學及歷	史學	同	同	百三十	四
工場	助	手	一	金石學及地質學	採鑛學	獨	同	三百五十	四
門	衛	七	臨時雇	動植物採集	英	同	同	三百五十	四

数学書	二〇九四	一二三	一一九	二一〇二
重学書	二一二	三〇	九	二二三
圖学書	四二六	一七〇	二	四三三
化学書	八三六	二一	六八	九三八
技術及製造書	一二二	二一	二	一四一
醫學書	三二四	三	一二	三一五
文學書	二六九四	二四七	三七二	二九六九
雜書	三四一	四九	四	三八六
字典	一六一一	九四	一五七	一五〇八
和漢書	六九〇八	四七三〇	二一五	一一四二三
合計	二三三七五	六五九三	一六四三	二八二八九

器械及雛形類一覽表

明治九年一月ヨリ八月迄

品名	在来数	増数	減数	存在数	増前年ヨリ
物理學用品及器械	七六六	新購 二九 造求 二九	合計 五二	八四四	増 四八
化学用品及器械	一六一九六	新購 一四一 造求 一三七	合計 一四二七	二六八六〇	増 一〇六六四
工業用器械及雛形	九	新購 九〇 造求 九〇	合計 一一〇	一九	増 一一〇
測量術用器械及雛形	八六	新購 一 造求 一	合計 一	八七	増 一
圖画術用器械及雛形	五五〇	新購 一四二 造求 三五	合計 一七八六	二三三六	増 一七八六
金石學用器械及雛形	四四五六	新購 五一〇 造求 五一〇	合計 五一〇	四四五六	増 五〇
本草學用見本	五三〇	新購 一 造求 一	合計 一	五三一	増 一
動物學用見本	三〇〇	新購 同 造求 同	合計 同	三〇〇	増 同

藥品一覽表

品名	在来数	増数	減数	存在数	増前年ヨリ
藥品	九一六品	新購 一二四品 造求 三〇品	合計 一五四品	二〇品	九五〇品

職員表

職	務	人員	學科及職務	國	月	結
學	校	一	英國法律及外國交際法	英	一	三百五拾四
同	補	一	化學	同	同	同
教	五等教授	二	機械工	同	同	三百
員	教授補	八	木工	同	同	三百五拾四
雇	教員	十一	物理	同	同	同
教	場助	二十	博物學及羅甸學	同	同	同
同	附	一	修身學及歷史學	英	同	三百三拾五
書	用	四	文	同	同	同
營	用	三	化學及物理	同	同	同
給	給	二	豫	同	同	二百五拾四
書	籍	三	豫	同	同	三百五拾四
器	械	二	物理學及重學	同	同	三百
製	煉	二	數學及算學	同	同	二百五拾四
製	作學	一	文學及歷史學	同	同	三百三十
工	場助	一	金石學及地質學	獨	同	三百五十
門	衛	七	臨時雇一動植物採集	英	同	三拾五

明治九年八月末調査

品	名	種	數	價	計	總
教	學書	二	九四	一	二	一一五
車	學書	二	一二	三	九	二一〇二
圖	學書	四	二六	九	二	二二三
化	學書	八	三六	一	七〇	四三三
技	術及製書	一	二二	二	六八	九三八

[illegible][illegible]

[illegible]

[illegible]

